

先日、池袋で高齢者ドライバーが運転をする自動車が暴走し、若い親子が犠牲となる痛ましい事故がありました。まずは犠牲になった方のご冥福をお祈り申し上げます。事故をきっかけに高齢者バッシングが広がり、これから高齢者が住みにくい世の中になっていくような気がして心配です。

早晚、道路交通法は高齢者に厳しく見直しされるでしょう。高齢者講習も厳しくなるでしょう。免許証に有効期限が新設されて、75歳以降は免許を取り直す、なんてことになるかも知れません。免許証の返納を推進する活動も活発になってくるでしょう。

しかし身体が不自由で自動車が無ければ生活できない高齢者もいます。高齢者でも自立しなければならない世の中です。自分で運転しなくてもアクティブに生きていける世の中を、社会全体で作っていく必要があります。

私自身傘寿を目の前にして、昨年新車を買替え、先日も新潟まで高速道で往復してまだまだこれからという気持ちですが、免許証返納を真剣に考えねばならないと思うこの頃です。くれぐれも事故の加害者にならないように、免許証返納の日まで安全運転を心がけたいと思います。

今、ある『マンガ』がインターネット上で物議を醸しているようです。

内容は、高齢化社会が行き詰まり、「老人駆除法」という法律が施行された、近未来の日本が舞台。仕事を探していたフリーターの若者がスカウトされ、国家公務員として老人を見つけたら「害虫」のようにどんどん駆除していき、やがて「老人」vs「国家」の戦争に発展していく、というかなり刺激的なもの。もちろん実際にはこんなことは考えられませんが、これがネットで話題になっていること自体、恐ろしい世の中になってきました。

背景にあるのは、日本社会が今直面している「少子高齢化」という問題です。「自分たちは、身を粉にして働いた中から、高齢者のために多大な負担をしている」「しかもその年金を、将来自分たちはまともにもらえないかもしれない」。若い世代のそんな不満がエスカレートしてもおかしくはないと感じます。そういう問題の入口に今我々は立っているのではないか、「嫌老感」のようなものがじわじわ広がり始めているのではないか、そんな気がしてなりません。考え過ぎかも知れませんが。

以前、「**結党！老人党**」という映画をみました。超高齢社会を迎えた日本の未来を、本気で変えようと立ち上がった老人たちの活躍を描いた政治コメディで、元気な老人たちのサクセスストーリーです。出演者は、笹野高史、津川雅彦、小野寺昭、市毛良枝など。



高齢者ドライバーの事故防止や免許証返納のための環境整備、少子高齢化問題など、今高齢者に関する課題は山積です。高齢者が暮らしやすい世の中にするために、今こそ「高齢者による高齢者のための政治」が必要かも知れません。「結党！高齢者幸福実現党」？

(2019/05/25)